

おおたサイエンススクール 未来の科学を担う 「科学大好きな子ども」育成

～ CSにおける「コミュニティーの核となる学校づくり」～



サイエンスキャラクター
「ドクターエッシー」

令和6年2月15日
大田区立清水窪小学校

清水窪小学校は、おおたサイエンススクールとして、科学大好きな子どもの育成を目指しております。
画面上のキャラクターは、児童が考案した、ドクターエッシーです。

おおたサイエンススクール 清水窪小学校



科学教育の推進を通して、自然や人、もの、ことと豊かに関わり、科学的思考力、コミュニケーション力を発揮して、主体的・対話的に学びを深め、**未来の科学を担う「科学大好きな子ども」を育成する。**

- 東京工業大学と大田区との連携による理科教育の推進【平成20年度～】
- 大田区教育委員会「おおたサイエンススクール」【平成23年度～】（14年次）
- 文部科学省教育課程特例校指定【平成25年度～】（12年次）
- 理科教育推進拠点校【令和2年度～】
- 大田区教育委員会教育研究推進校【令和5・6年度】

地域教育連絡協議会
（委員に東京工業大学教授）

学校支援地域本部（清水窪
応援隊）による「わくわく
スクール」の実施

- ▶ 特設教科「サイエンスコミュニケーション科(SC科)」
（全学年 年間35時間）【平成25年度～】
- ▶ 東京工業大学研究室訪問（3～6年）【平成23年度～】
- ▶ SC科見学（科学館・博物館・動物園等の見学）全学年実施
- ▶ 「土曜・夏休みわくわくスクール」（東京工業大学等と連携した科学講座等の充実）【平成22年度～】

本校は、過去に児童数が減少し、平成10年度からは、全学年単学級、平成17年度には、全校児童が101名となり、一時は廃校になるのではないかとされていました。

しかし、学校に協力的な地域住民や東京工業大学の教授のご尽力により、近隣の東京工業大学との連携教育により、科学教育を推進する特色を打ち出そうと取組を進め、平成20年度より、東京工業大学と大田区との連携による理科教育の推進がスタートしました。

そして、平成23年度からは大田区教育委員会おおたサイエンススクールの指定を受けるとともに、平成25年度からは文部科学省教育課程特例校に指定され、特設教科であるサイエンスコミュニケーション科を全学年で実施し、独自のカリキュラムによる科学教育や東京工業大学研究室訪問など、科学教育の充実により、「科学大好きな子どもを育てる」学校づくりを進めてまいりました。そして、学区外からの就学希望が認められ、児童数が増加し、13学級にまでになりました。

この科学教育の推進は、当時の地域教育連絡協議会や学校支援地域本部のコーディネーターの協力により、持続的に発展してきたものだと考えております。

学校運営協議会(コミュニティスクール)発足 【令和5年4月～】

設置目的

学校と地域、PTA等との連携を強固にし、情報の共有化を図り、子どもたちのよりよい環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すとともに、**未来の科学を担う「科学大好きな子ども」**を育てる教育を推進する。



本校では、これまでの地域教育連絡協議会や学校支援地域本部を土台として、今年度からコミュニティスクールを発足しました。
設置目的にある、**未来の科学を担う「科学大好きな子ども」**を育てる教育を推進することが、本校の特徴であると言えます。

学校運営協議会(コミュニティスクール)発足

【令和5年4月～】

協議会組織（委員16名）

地域自治会長 兼 地域学校協働本部(清水窪
応援隊)隊長(1名)

地域自治会長(3名)

地域商店街理事長(1名)

青少年対策地区委員会役員(1名)

民生委員主任児童委員(1名)

東京工業大学 名誉教授(1名)

東京工業大学 副学長(1名)

大田区保護司会(1名)

PTA会長・副会長(各1名)

地域学校協働本部コーディネーター(3名)

校長 及び学校事務局(副校長・主幹教諭2名)

地域教育連絡協議会（委員11名）

地域自治会長 兼 学校支援地域本
部(清水窪応援隊)隊長(1名)

地域自治会長(1名)

青少年対策地区委員会役員(1名)

民生委員主任児童委員(1名)

東京工業大学 名誉教授(1名)

同窓会顧問(1名)

PTA会長・副会長(各1名)

学校支援地域本部コーディネーター
(2名)

校長 及び学校事務局(副校長・主幹
教諭2名)

組織はご覧のように、これまでの地域連絡協議会の委員と比較して、地域のすべての自治会長と地域の商店街理事長を加えたこと、東京工業大学の教授等の人数を増員し、地域と共にある学校づくりや科学教育の推進に向けた人員構成としました。

学校運営協議会(コミュニティスクール)発足 【令和5年4月～】

協議会年間計画（協議内容）

第1回 (6月)	・令和5年度学校運営の基本方針について(承認) ・令和5年度行事予定及び特色ある教育活動の推進について(説明) ・おおたサイエンススクール研究概要について(説明) ・学校関係者評価について(依頼) ・意見交換(熟議)
第2回 (7月)	・1学期の教育活動について(報告) ・夏季休業中の教育活動(わくわくスクール等)について(説明) ・PTA活動について(報告) ・地域行事等について ・第2学期の教育活動について(説明) ・意見交換(熟議)
第3回 (9月)	・夏季休業中の教育活動について(報告) ・児童の学力の状況について(報告) ・2学期の教育活動について(報告) ・意見交換(熟議) ・道徳授業参観 ・道徳授業地区公開講座 参加
第4回 (11月)	・学芸会鑑賞 ・学校給食について(給食試食・説明) ・児童の体力の状況について(報告) ・地域学校協働本部の活動(わくわくスクールの実施について)(報告) ・意見交換(熟議)
第5回 (2月)	・学校公開「サイエンスフェスティバル」参観 ・おおたサイエンススクールの取組について(報告) ・学校保健について(報告) ・保護者及び児童の学校評価アンケート結果について(報告) ・学校関係者評価について(依頼) ・令和6年度学校運営の基本方針について(承認) ・令和6年度教育活動について ・意見交換(熟議)

本年度は、5回の学校運営協議会を実施しました。
コミュニティスクールの必須事項である、学校運営に関する基本方針の承認のほか、学校と地域、PTA等との連携を強固にして科学教育を推進するという目的の達成に向け、おおたサイエンススクールとしての取組内容や学校協働本部によるわくわくスクールの取組、PTAや地域行事の活動などの情報交換や、これらに関する意見交換を行ってきました。

地域学校協働本部(清水窪応援隊)の協力による活動

土曜・夏休み わくわくスクール (科学講座)

清水窪応援隊(地域学校協働本部)コーディネーターと連携し、土曜わくわくスクール及び夏休みわくわくスクールにおいて、東京工業大学サークルや地域の専門家等の協力を得て、希望者を対象に、科学に関する講座を実施している。



望遠鏡をつくろう



水のトルネードをつくろう



葉脈標本をつくろう



機織機をつくろう



ゴム動力飛行機をつくろう

具体的な取組について報告いたします。

画面に示しているのは、**地域学校協働本部(清水窪応援隊)の協力による土曜・夏休み わくわくスクール**の様子です。

東京工業大学の科学サークルや地域の専門家等の協力を得て、希望者を対象に、科学に関する講座を実施しております。

地域学校協働本部(清水窪応援隊)の協力による活動

土曜・夏休み わくわくスクール (その他の講座)

科学関係の講座のほか、東京工業大学のレゴ同好会・管弦楽団、保護者や地域の方の専門性を生かした、スポーツや音楽、ダンス、創作活動などの講座を実施している。



サッカー教室



サンキャッチャーをつくろう



東工大管弦楽演奏会



LEGOでつくろう



チェロを楽しもう

科学関係の講座のほかにも、東京工業大学のレゴ同好会・管弦楽団の協力による講座や、保護者や地域の方の専門性を生かした、スポーツや音楽、ダンス、創作活動などの講座を実施しております。
子どもたちからとても好評で、講座によっては抽選となることもあります。

地域学校協働本部(清水窪応援隊)の協力による活動

東京工業大学留学生との国際交流学習

全学級に様々な国の留学生が来校し、それぞれの国の紹介をし、児童と交流をしています。



地域の方との交流会（ふれあい給食会）

全学級に地域の方をお招きし、給食を食べながら交流しています。
また、1年生は、地域の方と昔遊びを楽しむ交流会を行っています。



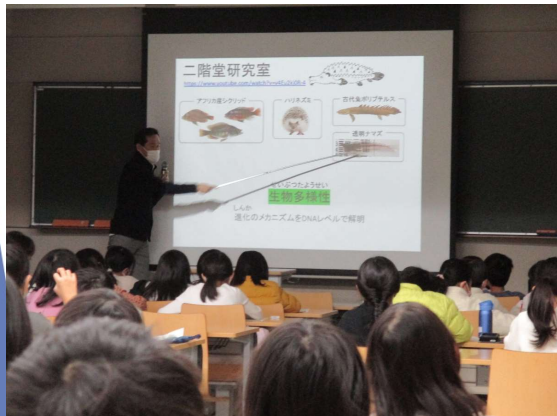
さらに、本年度からは、東京工業大学留学生との国際交流学習や地域の方とのふれあい給食会、1年生との昔遊び交流会にも、**地域学校協働本部(清水窪応援隊)**のコーディネータのご協力をいただきました。管理職や担当教員が代わっても、持続可能な取組となることが期待できます。

東京工業大学の協力による活動

東京工業大学研究室訪問（3年生）

東京工業大学 生命理工学院准教授
二階堂雅人先生 研究室訪問

- ▶ クジラの進化の研究、熱帯魚の研究について講義と研究室の熱帯魚水槽の観察を通して学ぶ。



これは、東京工業大学の協力による研究室訪問の様子です。3年生以上の学年で実施しています。
画面は、クジラの進化の研究、熱帯魚の研究について講義、研究室の熱帯魚水槽の観察を通して学んでいる様子です。

東京工業大学の協力による活動

東京工業大学研究室訪問（5年生）

東京工業大学 工学院院长・工学院機械系教授
岩附 信行先生 研究室訪問

- ▶ 歩行ロボットの脚のメカニズムについて、講義と模型作りを通して学ぶ。



これは、5年生の研究室訪問の様子です。本校の学校運営協議会委員でもある、岩附副学長による、歩行ロボットの脚のメカニズムについての講義と模型作りを通して学んでいる様子です。

北千東北自治会、大岡山・千束地区まちづくり協議会 との連携による活動

和太鼓楽団「打鼓音ジュニア」との『和太鼓交流演奏会』

20年の伝統ある和太鼓学習を
地域に披露しています。

地域の自治会・まちづくり協議
会の主催で、日本一の栄誉を誇
る和太鼓楽団「打鼓音」と6年
生児童が東京工業大学講堂で和
太鼓交流演奏会を実施していま
す。



大岡山北本通り商店街振興組合・大岡山陸会・大岡山 北口商店街振興組合との連携による活動

そのほか、大岡山さくらまつりでも演奏する
機会をいただいています。

また、地域の自治会との取組として、日本一の栄誉を誇る和太鼓楽団「打鼓音」と6年生児童が、東京工業大学講堂で合同演奏を行う、和太鼓交流演奏会を実施しています。

そのほかにも、本校の20年の伝統がある和太鼓演奏は、地域のイベントでも披露する機会をいただいています。

PTA読み聞かせサークルの 読み聞かせ（毎月）



SC科学習への 東京工業大学名誉教授の助言



PTAによる楽しいイベント



また、PTAによる縁日やお泊り会などのイベント、読み聞かせサークルによる毎月のブックトークなどの実施のほか、本校、学校運営協議会委員でもある、東京工業大学名誉教授の鈴木正昭先生から、児童が直接学ぶ取組も行いました。

学校・保護者・地域が、みんなで子どもたちを育てる

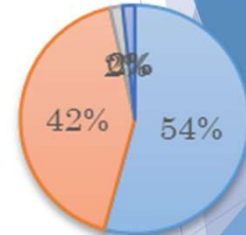
成果

- ▶ 学校教育の方針や教育活動に対する共通理解が深まり、地域と学校との連携がより密になった。そのため、学校教育への協力が得やすくなった。

課題

- ▶ 保護者アンケート「地域の力を教育活動に生かしている」の肯定回答は多いが、CSに関する情報提供を更に充実・工夫する必要がある。
- ▶ 科学教育の推進について更に議論を深めたい。

学校は地域の力を子どもたちの教育活動に活かしている



地域の一員として、地域に貢献できる人材の育成

成果としては、学校教育に対する共通理解が深まり、地域と学校との連携がより密になり、学校教育への協力が得やすくなったことが挙げられます。一方、課題としては、保護者アンケート「地域の力を教育活動に生かしている」の肯定回答は多いのですが、CS 1年目であり、取組に関する情報提供を更に充実・工夫する必要があると考えています。今後も、「学校・保護者・地域が、みんなで子どもたちを育てる」という共通認識の下、子どもたちが地域の一員として、地域に貢献しようとする態度を育成していくことが大切だと考えています。

おおたサイエンススクール
未来の科学を担う
「科学大好きな子ども」育成

～ CSにおける「コミュニティーの核となる学校づくり」～



ご清聴
ありがとう
ございました

令和6年2月15日
大田区立清水窪小学校

以上で、発表を終わります。